

## 第2学年国語科学習指導案

日時 平成16年11月26日(金)5校時  
場所 2年1組教室  
児童 男20名 女19名 計39名  
指導者 鎌田 聡子

- 1 単元名 本は友だち  
教材名 「スーホの白い馬」(おおつかゆうそう)(光村2下)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

第1学年及び第2学年の読むことの目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」ということである。

本教材は、「場面の様子を広げながら読み、感じたことを話し合う。」「すきなお話を紹介しあい、読書への興味を深める。」ことを主目標とする物語文である。

この物語は、モンゴルに今も伝わる「馬頭琴」という楽器のいわれを語るところから始まり、主人公スーホと白馬との出会い、友情の深まり、横暴な殿様によって白馬と引き離されたスーホの悲しみ、白馬の死と続く。そして、白馬から作られた馬頭琴をスーホが弾く場面で幕を閉じる物語は、児童に深い感動を与えると思われる。

2年生にとってはかなりの長文であるが、様子や気持ちを表す言葉や会話文が多い教材なので、それらを用いることにより場面の様子を想像させることができると考える。また、自分なりに読み取り、自分なりの感想を持ちながら読み進めていくのに適した教材といえる。

#### (2) 児童について

児童はこれまでに光村2上第四单元「すきなお話を読もう」(教材名「スイミー」)や光村2下第一单元「ようすを考えて読もう」(教材名「お手紙」)で、場面の様子を想像しながら読み、お話の楽しさを味わってきた。また、いろいろな絵本を探して読み、友達と紹介し合う活動も行ってきた。場面の様子を想像することについては、ほとんどの児童が意欲的に取り組み、文章に書かれた言葉に着目して読み取ろうとする態度が見受けられるようになってきた。読書については、「お手紙」の学習で指導者が『レオ＝レオニ』のシリーズを読み聞かせたのをきっかけに同じ作者の本を続けて読んだり、友達と本を交換して読んだりする児童もいる。

しかし、どちらの項目についても個人差が大きく、文脈からはずれた勝手な想像で読もうとしたり、進んで読書をしようという態度に欠けたりする児童も少なくない。

音読については、授業中のみならず、帰りの会での詩の群読や家庭音読を1年生から続けている。その結果自信を持って音読をする児童が増えている。詩の群読では、動作化をしながら楽しそうに読む児童も多い。

#### (3) 指導にあたって

児童には単元名の「本は友だち」を生かしながら読み取らせていきたい。

その際、次の三点に留意する。

第1に、作品を丸ごと読むために、すらすら音読できるよう音読練習の時間を保障し、自分でじっくりと作品に読み浸らせる。

第2に、事柄の順序に気を付けて長文を読むため、さし絵を活用する。

第3に、スーホと白馬の様子や心の結びつきを読み取るために、重要な文を関係づけながら読ませる。

その上で、児童一人一人がそれぞれ感じたことを話し合い、同じ物語を読んでも一人一人感じ方が違うのだということを実感させたい。それにより、皆で本を読む楽しさに気づかせることができるのではないかと考える。

さらに後に続く「本は友だち」でいろいろなお話のおもしろさやそれを友達と伝え合う楽しさを確かめさせたい。

3 単元の目標

- (1) 国語への関心・意欲・態度
  - ・いろいろな話に興味をもって読もうとする。
- (2) 読むこと
  - ・場面の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。(Cウ)
- (3) 言語についての知識・理解・技能
  - ・新出漢字を読むことができる。(イ【ウ】)

4 単元の評価規準 (B)

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・いろいろな話に興味をもって読み、感想をもち、それを伝えようとしている。	・場面の移り変わりをとらえ、場面の様子や登場人物の気持ちなどを想像しながら読んでいる。	・新出漢字の読みを覚え、音読に生かしている。

5 学習指導計画 (全12時間)

- 第1次 全文を通読し、学習の見通しをもつ。 \_\_\_\_\_ 3時間
  - ・学習の全体像をつかんだ後、教師の範読を聞き、初発の感想を書く。 ..... (1)
  - ・音読練習をし、すらすら読めるようにする。 ..... (1)
  - ・さし絵やスーホの会話文を手がかりにあらすじを確認する。 ..... (1)
- 第2次 場面の様子や人物の気持ちを読み取り、感想をもつ。 \_\_\_\_\_ 4時間
  - ・スーホの行動に視点を当てて内容を読み取る。 ..... (1)
  - ・白馬の行動に視点を当てて内容を読み取る。 ..... (1)
  - ・P74L6までのスーホと白馬の心の結びつきを読み取り、感想をもつ。 (1)
  - ・P74L7～終わりまでのスーホと白馬の心の結びつきを読み取り、感想をもつ。 (1)
- 第3次 音読発表会をする。 \_\_\_\_\_ 2時間
  - ・音読発表会の準備をする。 ..... (1)
  - ・音読発表会をする。 ..... (1)
- 第4次 自分の心に残っている本を友達と紹介し合う \_\_\_\_\_ 3時間
  - ・紹介する本を選び、準備をする。 ..... (2)
  - ・本の紹介をする。 ..... (1)

6 本時の学習指導

(1) 目 標

- ・スーホのもとに帰ってきた白馬の様子や、スーホが馬頭琴を作った理由をもとに、スーホと白馬の心の結びつきを読み取り、感想を書くことができる。

(2) 展 開

	学習内容と活動	指導上の留意点
課題把握	1 本時の学習課題を確認する。	
2分	スーホと白馬のようすをそうぞうしながら読みましょう。	

<p>課題追究</p> <p>40分</p>	<p>2 課題を解決する。</p> <p>(1) 提示されたさし絵を順番に並べ、学習場面の大体をとらえる。</p> <p>(2) 帰ってきた白馬を迎えるスーホと、死んでいく白馬の様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあさんの叫び声を聞いたスーホの様子を話し合う。</li> <li>・白馬の様子を話し合う。</li> </ul> <p>(3) スーホが馬頭琴を作った理由について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーホが馬頭琴を作った理由を話し合う。</li> <li>・馬頭琴をひくスーホの様子を話し合う。</li> </ul> <p>(4) 本時の学習場面について感想をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を書き、発表する。</li> <li>・友達の感想を聞いて、自分の感想と比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習方法の想起を兼ねながら、3つのさし絵を提示する。</li> <li>・初めに「スーホははねおきてかけていきました。」の文を押さえさせ、「おきていきました。」の文との比較をさせることにより、スーホがずっと白馬を待っていたことに気づかせたい。</li> <li>・「矢が何本もつきささり」「あせがたきのように」から深手を負った白馬が必死に走り続けてきたことを想像させる。</li> <li>・「走って、走って、走りつづけて」から白馬がスーホに会いたいと強く思っていたことを想像させる。</li> <li>・スーホが見た夢の中での白馬の会話文（特に「わたしはいつまでもあなたのそばにいられますから。」）を手がかりにさせる。</li> <li>・「スーホは、自分のすぐわきに白馬がいるような気がしました。」の文から考えさせる。</li> </ul> <p>-----</p> <p>具体の評価規準</p> <p>A 本時学習場面を中心として、前時までの心の結びつきにもふれながら感想を書いている。</p> <p>B スーホのもとに帰ってきた白馬の様子や、スーホが馬頭琴を作った理由をもとに心の結びつきを読み取り、感想を書いている。</p> <p>C への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書をもとに振り返らせる。</li> <li>・友達の発表を聞いて感想をもたせる。</li> </ul>
<p>終末</p> <p>3分</p>	<p>4 本時の学習についてまとめる。</p> <p>(1) まとめの音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標に関連した部分の音読をする。</li> </ul> <p>(2) 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P 7 6 L 9, P 7 6 L 1 3 ~ P 7 7 L 2, P 7 8 L 4 ~ L 6, P 7 9 L 3 ~ L 5</li> <li>・ 次時は、音読発表会の準備をすることを話す。</li> </ul>

読みましよ。白馬のようすをそうそうしながら

スーホの白い馬  
おおつか ゆうそう

さし絵⑤

「白馬だよ。うちの白馬だよ。」

さし絵⑥

いきました。はねおきてかけて

白馬のこと  
をすつと考  
えていた。

さし絵⑦

白馬は、しんてしましました。  
が、は、ひどいきずをうけな  
ら、は、走つて、走つて、走  
つとづ、こけてへ帰つてきたので

矢が何本も  
あせがたきのように

休まないで  
スーホに会  
いたい。

さし絵⑦

「あ、つやたく①  
ら、な、て毛しだそ  
。たわくをのさん  
のただつほいな  
そしさかね。に  
ばはいつや②か  
に、。てかそな  
いい③、われし  
らつそ樂やよま  
れまう器、りな  
まですをす、い  
すもれ作じわで

心のむすびつき

「これから先、ど  
よ、ほ、くらは、おま  
だ、よ、くらは、おま  
えん、な、と、い、っ、き、し、で

(馬頭琴をひく) たび

そ、して、スーホは、  
が、しました。白馬が、  
い、る、よ、う、な、気、す

白馬はしんでも  
スーホと心でつ  
ながっている。